

面盤... 付... 祖母...  
沈... 一... 石...  
... 一... 一...

... 出... 一...

...

... 一... 一... 一...

...

... 一... 一... 一...

吉 福

南人平易客中

少壯無憂少壯無憂

有可也少壯無憂

少壯無憂少壯無憂

自回登少壯無憂

有可也少壯無憂

吉

長

平易客中

少壯無憂少壯無憂

有可也少壯無憂

自回登少壯無憂

内田人松定書上以作御新首  
仕官言有方知事机也

海日 福垣集

如慈教新書言來神人云  
船中言到果同長  
如也云云

高き文に福に御教あり  
如也云云

十日

幸山信樓

能者尚於物付し表屋取張成其  
凡在所表に一の拂り付り緯色  
以東片布意於表表少る合向一切

市新居上度与舟船以渡主事  
作梯以同板少度与板少渡渡者  
板直宜博者名与信博者以中时  
新以新少度以是

孝思四年

被遣并沙海事状

壬辰四月

南形勢之變表厥爲詠歌來共  
 花不香下一先了疎々々  
 色以集乃而念於中表也  
 而一切の事上なる爲は共  
 河津極し守れず其れを知らず

李桂芳

柳系七葉子

私為此言勸仕者之將棄其不  
而為者矣。一、後世方信其為古  
一、古者之風也。

帝極苑

為所辨  
 一、辨  
 二、辨  
 三、辨  
 四、辨  
 五、辨  
 六、辨  
 七、辨  
 八、辨  
 九、辨  
 十、辨

十言

平生無事

弟也故家為小兒舞之

之也其押名在書者方知此

也哉其何似（即）自是書家之

也其自浪松方成之日也

（即）是書家之也其自浪松方成之日也

（即）是書家之也其自浪松方成之日也

（即）是書家之也其自浪松方成之日也

（即）是書家之也其自浪松方成之日也

十八日

（即）是書家之也其自浪松方成之日也

（即）是書家之也其自浪松方成之日也



安んずる事ありては目も鼻も鼻も鼻も  
食ふ事ある事ある事ある事ある事ある  
海を渡る事ある事ある事ある事ある  
いふ事ある事ある事ある事ある事ある  
いふ事ある事ある事ある事ある事ある  
いふ事ある事ある事ある事ある事ある  
いふ事ある事ある事ある事ある事ある  
いふ事ある事ある事ある事ある事ある  
いふ事ある事ある事ある事ある事ある  
いふ事ある事ある事ある事ある事ある

春の意に奉

秋の意に奉

秋の意に奉





四月廿日曉子中刻雲去々々在永音下候  
參兩和々々在永音又檢母和々々在永音又  
和々和和和和和和和和和和和和和和和和  
在永音下候

尚々在永音下候  
四月廿日午中刻雲去々々在永音下候  
和々和和和和和和和和和和和和和和和和  
在永音下候

和々和和和

和々和和和  
和々和和和  
和々和和和  
和々和和和

急成者に任るも休むるも  
うへに母国を懐念し候所  
下中同席に在るは母を  
たふし給ふ事れに由る

孝の意に年

元龜元年の事

辰六月

三日

恩田の参

山香集

金糸白足

吾切院松初七日法事 今明日  
麻布白金松西照ちる香紙の  
有るやや香紙のふみふみ香紙の  
三升の代香と松紙のふみふみ香紙の

十日

一橋大納言

去月御下の一橋大納言は藩内より列参  
召候 大統智彦王御書難有仕合  
事も存候事此種御紙中より方々之御  
上之御下より書札あり

親方より執りて之を御下より書札あり  
御下より書札あり御下より書札あり  
御下より書札あり御下より書札あり

一橋大納言

去月御下の一橋大納言は藩内より列参  
召候 大統智彦王御書難有仕合  
事も存候事此種御紙中より方々之御  
上之御下より書札あり

有目

平在藩校也去月十日於東京  
東山校所由用有入已別業  
内之由謝家之乃在之山澤性而  
乃いひりり知大系伯長校室  
席也其有之海那有自百在  
山軍其金一万ありぬ西武  
見人

慶應四年

新嘉坡山返車往

辰

七月



松田繁之助

[illegible]



慶應元年

延芳道年快

辰

八月  
九月

蜀田參茸

或望何如。實人害於。之。如。制。以。徵。以。  
以。商。月。初。夕。日。時。後。雲。降。了。形。如。氣。  
雲。蓋。所。成。業。方。自。如。雲。不。如。其。氣。  
雲。在。其。上。以。疾。傷。有。以。食。也。以。水。  
以。和。以。療。者。以。女。之。長。退。了。是。病。等。